

兵庫県 の 甲 虫 類 (2)

(兵庫県甲虫相資料・145)

高 橋 寿 郎

本文に入る前に前報文でハラジロカツオブシムシ *Dermestes maculatus* の野外での採集をしたことがないむね記しておいたがその後明石市林崎の海岸ですてられた藁の下で採集することが出来た(3exs., 30-V-1983)ので記録しておく。中根博士もかつて漁村のある所だと魚骨、乾魚が砂の上のところがあるせいでカツオブシムシ属 *Dermestes* のもの、トビカツオブシムシ、ハラジロカツオブシムシがよく飛んだり匂ったりしていると記録しておられる(1954)。海岸線をもっと調べたら広く普通にいる種なのであろうと思われる。

さて今回はヒョウホムシ科とシバンムシ科の県下産のものをまとめて見ることにした。今回も一部標本について愛媛大学の久松定成氏に同定を御願した。こゝに厚く御礼を申しあげさせて頂く。

Family Ptinidae ヒョウホムシ科

日本産の本科に就いては久松定成氏が詳しく解説された総説を發表しておられる(あげは, No.11:14-20, 1970)。中根博士は原色で日本産5種を図説しておられる(1963)。一般に乾いた動物質・植物質のものを食するため、食品、標本、種子などの被害は広範囲に及ぶことから一部種に就いての生態をもふくめた解説(林 長閑, 家屋害虫, No.13/14, 1982. 同名单行本, 1984)も出たし、また原色による解説書も出ている(衛生害虫と衣食住の害虫, 1983)。

兵庫県産の本科のものは4種しか記録出来ていない。多分に調査が不充分であることを痛感している。より詳しい調査を続けたいものである。

1. *Ptinus (Ptinus) clavipes* Panzer

ヒメヒョウホムシ

産地：川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市鳥原(1♂, 5-VIII-1974, 1♀, 4-IV-1976)。

2. *Ptinus (Cyphoderus) japonicus* Reitter

ナガヒョウホムシ

産地：津名郡五色町下堺〔堀田, 1978〕。洲本市安乎町〔堀田, 1978〕。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市鳥原(lex., 31-III-1962, lex., 25-IV-1971, 1♀, 5-VIII-1974, lex., 14-I-1980)。氷上郡〔山本,

1958〕。豊岡市金山〔高橋, 1975〕。

3. *Pseudeurostus hileri* (Reitter)

カバイロヒョウホムシ

産地：氷上郡〔山本, 1958〕。

4. *Gibbium aequinoctiale* Boieldieu

ニセセマルヒョウホムシ

従来セマルヒョウホムシとして *Gibbium psylloides* (Czenpinski) の学名で同定されていたもの(中根博士の大図鑑にも始めこの学名で図示されている)が実は日本にいるのは表記学名の種にあたと。真の *G. psylloides* が日本にいるのかどうかははっきりしないとのこと(久松, 1970)。

産地：洲本市安乎町〔堀田, 1978〕。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市鳥原(lex., 14-VI-1970, lex., 21-VI-1970, lex., 31-VIII-1971, lex., 28-X-1970, lex., 10-VIII-1974, lex., 17-XI-1974, lex., 11-VI-1978, lex., 7-VII-1981, 2exs., 18-IX-1981, lex., 8-VI-1982)。氷上郡〔山本, 1958〕。

Family Anobiidae シバンムシ科

本科のものは枯木や乾いた植物質・食品を食する。動植物の乾燥標本を食害するとか葉巻煙草・書籍の害虫等々吾々の生活にも関係のある虫達なのであるが残念ながら日本産のこの類を総括的にまとめられたものは皆無に近い状況である。従って日本にこの科のものがいくらかもははっきりしない(概数32・中根, 1972)。併しながら最近になって酒井雅博氏の研究結果が逐次発表されているので近い内にその全貌がはっきりするものと期待している(酒井, 1970, 1975, 1977, 1979, 1982, 1984)。中根博士は日本産のこの類を18種原色で図説しておられる(1963)。

一般に家屋内でも割合見られる種も多いのに実際に県下にこの科のものがどの様に分布しているのかと云うことになるとほとんど記録が無く全くよくわからないと云うのが現状のようである。一応現時点での県下産のものをまとめて今後の調査の資料にしたいと考える。

1. *Ernobius mollis* Linné

マツサイシバンムシ

成虫は5～8月に出現し、針葉樹の割れ目などに産卵。幼虫は樹皮と材部の間の組織を食い進み、幼虫で越冬すると。1年1世代で成虫は1週間から1か月近く生存するそうである。県下での記録が全く見られない。筆者は鳥原で採集しているが調査が全く出来ていない種である。
産地：神戸市鳥原 (lex., 19-V-1981)。

2. *Trypoptys cylindrichus* Nakane

オオナガシバンムシ

中根博士が“Namari Spa., Miyagi Pref.”産で記載された種である (Fragm. Coleop. Pars. 12:47-48, 1963)。同博士は原色で図説されている (1963)。筆者は未採集であるが県下に次の記録がある。
産地：洲本市先山 (堀田, 1978)。

3. *Oligomerus japonicus* Sakai

本種は酒井雅博氏が大阪の岩湧山産1♂をホロタイプに、パラタイプとして札幌、青森、石川、山梨、大阪、兵庫、鳥取、徳島産の標本を用いて図を入れて新種記載された種である (Spec. lss. Mem. Retir. Emer. Prof. M. Chujo, p.46-48, Figs. 6, 10, 11, 14, 1982)。筆者が氷の山で採集して(1♀, 21-VII-1958)種名がわからず愛媛大学の久松定成氏に同定御願いして送った標本がパラタイプの1つとなっている。県下ではその後お目にかかっている。調査が足りないと思われる。和名も今のところついていない。

産地：養父郡氷の山 (1♀, 21-VII-1958, T. Takahashi leg., 愛媛大学農学部昆虫学教室保管)。

4. *Stegobium paniceum* Linné

ジンサンシバンムシ

世界共通種で朝鮮人参を喰害することからこの和名がつけられたとのこと。別名クスリヤナカセとも云われている。菓子類を始め多くの食品を食べあらず(100種以上を食害すると)。また海外では Library beetle と呼ばれて書籍の害虫となっている。

最近神戸市内などの鉄筋コンクリート住宅に発生して問題となっているシバンムシアリガタバチもこのジンサンシバンムシを寄主にしている (興谷博士によるとシバンムシアリガタバチの真の寄主はタバコシバンムシかも知れないと飼育の結果から述べておられる。家屋害虫, No. 15/16, 1983)。

多くいるのであろうが記録は思った程知られていない。

産地：川西市大和 (仲田, 1979, 1982)。神戸市鳥原 (lex., 24-VII-1974, lex., 24-V-1980, lex., 20-

VII-1982)。多可郡三谷 (lex., 26-VIII-1973)。水上郡水上町生郷 (山本, 高橋, 1962)。出石郡出石町 (高橋, 1963)。豊岡市立石 (高橋, 1975)。

5. *Gratallus immarginatus* Müller

フルホソシバンムシ

古本の害虫として知られている。特に和紙を使用した古い書籍の最大の害虫であると。屋内でも屋外でも見られる。神戸市内ではむしろ屋外でたくさんいるように思われる。わが国では西日本より東日本に多いと云われている。和紙を好み、古文書や書画などの美術品も加害するとか。西日本ではザウテルシバンムシが書籍を加害すると云われているがこちらの方はまだ採集していない。この種は東日本より西日本に多い種でやはり和紙使用の書籍の害虫であると同時に台湾では洋書の被害が多く、合板が加害された記録がある (森池, 1979)。

産地：神戸市鳥原 (lex., 8-VIII-1971, 3exs., 12-VI-1980, lex., 13-VI-1980, lex., 17-VI-1980, lex., 16-VI-1981, 3exs., 4-VI-1982, lex., 6-VI-1982, lex., 8-VI-1982, lex., 9-VI-1982, lex., 10-VI-1982, 2exs., 13-VI-1982, lex., 15-VI-1982, lex., 17-VI-1982, 3exs., 19-VI-1982, lex., 21-VII-1982, lex., 24-VI-1982, lex., 28-VI-1982, lex., 9-VII-1982, lex., 12-VII-1982, 2exs., 1-VI-1983, lex., 6-VI-1983, lex., 11-VII-1983)。

6. *Anhedobia capucina* Reitter

ヒメトサカシバンムシ

本種の県下に於ける記録がほとんどない。神戸市内では大変多くいるのでやはり注意が足りない種のようなのである。神戸では墓地のような所で飛翔しているのが比較的採集出来るしまた可成り気温の低い時期枯枝などを叩くと落ちてきたりする。

産地：神戸市鳥原 (lex., 1-V-1973, 3exs., 11-V-1975, lex., 25-V-1975, lex., 18-V-1979, 2exs., 26-V-1979, lex., 17-V-1980, lex., 23-IV-1981, lex., 5-V-1981, lex., 8-V-1981, 4exs., 9-V-1981, lex., 13-V-1981, lex., 20-V-1981, lex., 17-VI-1981, lex., 6-V-1982, lex., 8-V-1982, 3exs., 18-V-1982, lex., 23-V-1982, lex., 28-V-1982, 3exs., 25-IV-1983, lex., 1-V-1983, 2exs., 3-V-1983, 2exs., 9-V-1983, lex., 18-V-1983, lex., 21-IV-1984, lex., 27-IV-1984)。相田市三濃山 (lex., 12-V-1974)。

7. *Trichodesma fasciculare* Reitter

トサカシバンムシ

割合と県下での記録はあるが海岸線ぞいの地域には少いのか見る機会があまりない。

前種より個体数が少いように思われるが分布は結構広いようである。

産地：川辺郡猪名川町杉生新田〔仲田, 1982〕。川西市笹部〔仲田, 1978〕。神戸市御影〔関, 1934〕。飾磨郡雪彦山〔lex., 14-VII-1957〕。宍粟郡音水〔2exs., 15-VII-1973〕。氷上郡〔山本, 1958〕。出石郡出石町〔高橋, 1963〕。

8. *Nicobium castaneum* Olivier

ケブカシバンムシ

野外で枯死木を食害するが、時に書籍を害す。神社仏閣・木彫仏像・屏風などの古文化財の最大の害虫でもあると云われている。分布は世界各地となっている。県下でも割合広く産するようであり、神戸市内でも得られる。

産地：神戸市鳥原〔lex., 2-VII-1951, lex., 2-VIII-1959, lex., 27-VII-1962, 2exs., 1-VIII-1962, lex., 4-VIII-1962, lex., 13-VIII-1977, lex., 21-VII-1981〕。氷上郡〔山本, 1958〕。出石郡但東町久畑〔高橋, 1963〕。豊岡市土淵〔高橋, 1975〕。養父郡氷の山〔lex., 25-VII-1955〕。美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1972〕。

9. *Ptilineurus marmoratus* Reitter

クシヒゲシバンムシ

枯木を害し、畳表、ラックスに孔をあけると云うことで広く見られると思うのだが記録が全く無い。調査が不十分のようである。本種の幼虫の天敵クロアリガタバチが人を刺すことがよく知られている。本来は食材料であるが紙製品、飼料や肥料（油粕）の中からも見い出されることがあると。成虫は5～9月に見られ1年1世代で通常幼虫で越冬する。

産地：宍粟郡音水〔lex., 20-VIII-1959, S. Hisamatsu det.〕。

10. *Xyletinus japonicus* Pic

セスジタワラシバンムシ

中根博士による図説がある(1963)が県下では次の記録を知るのみで調査不十分の種である。

産地：洲本市先山〔2exs., 15-IV-1971, M. Tomokuni leg., Sakai, 1975〕。

11. *Lasioderma serricorne* Fabricius

タバコシバンムシ

タバコの大害虫と云うが乾燥させた葉たばこや巻きた

ばこがいちじるしい被害をうけたことからその名がつけられたとのこと。ジンサンシバンムシと同じ植物質のものを広く食べあらし、食品類のほか貯蔵されている種子、飼料や油粕、そして動植物標本までも害するし、畳を加害するようで、これがアリガタバチの寄主の関係からアリガタバチ（シバンムシアリガタバチ）が鉄筋アパートに多くあらわれるようになっている。従って野外で得られるより家屋内で多く見られる。特に8月頃家屋内の電燈に飛来するものが多い（本種の生活については林博士, 1982, 奥谷博士, 1983の報文に詳しい）。

産地：川西市大和、笹部〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市鳥原〔lex., 27-VIII-1973, S. Hisamatsu det., lex., 14-IX-1974, lex., 14-VII-1975, lex., 16-VIII-1975, lex., 25-VII-1976, lex., 14-VIII-1976, lex., 21-VIII-1976, lex., 8-IX-1976, lex., 21-X-1977, 2exs., 19-IX-1980, lex., 2-IX-1981, 3exs., 20-VIII-1982, lex., 28-V-1982, lex., 21-V-1983〕。明石市明石公園〔lex., 9-VI-1978〕。多可郡鳥羽〔lex., 6-IX-1975, lex., 8-V-1976〕。神崎郡大河内町川上〔lex., 4-VI-1977〕。

12. *Mizodorcatoma pinicolae* N. Hayashi

ツガタケミゾシバンムシ

本種は始め林長閑博士によってツガタケを食菌とすることから *Dorcatoma pinicola* と名付けられた（島々谷, 志賀高原産）（Kontyu, XIX: 27, 1951., Chuho, No. 4: 7, pl. 3, Fig. 2, 1951）。後 *D. formentaria*（ツリガネタケを食菌とする尾瀬産。Kontyu, XIX: 27, 1951）並びに *D. pinicola f. formentaria*（Chuho, No. 4: 7, pl. 3, fig. 3, a, b, 1951）をも総て同一種として新属 *Mizodorcatoma* 属を創設この属の種として記載をされたものである（New Entomol. IV, 1/2: 21-23, 1955）。

県下で次の記録を知るのみである。

産地：洲本市三熊山〔久松, 1974〕。

13. *Dorcatoma polypori* N. Hayashi

クリイロマルチビシバンムシ

中根博士の図説がある(1963)。県下での記録は次のものを知るだけで調査が足りない種である。

産地：川辺郡猪名川町内馬場〔仲田, 1979〕。

14. *Caenocara rufitarsis* Reitter

クロマルチビシバンムシ

黒色小型(体長2.5mm内外)。背面強く点刻され上翅では2列状。眼は細いが深い切れこみがあり、触角末端2節は長くその前節は強く内方に広がる特徴がある。可成

り野外で多く採集出来る。小さいので注意しなくてはならない。

産地：川西市笹部(仲田, 1978)。神戸市鳥原 (lex., 17-VI-1980, 2exs., 19-VI-1982, lex., 29-V-1983, lex., 1-VI-1983, 2exs., 23-VII-1983, lex., 4-VI-1983, lex., 8-VII-1983, 3exs., 7-VIII-1983, lex., 10-VIII-1983), 妙法寺 (3exs., 22-II-1979)。

15. *Caenocara tsuchiguri* M. Sakai

本種は酒井雅博氏が1984年に新種記載された種である (Trans. Shikoku Ent. Soc. Vol. 16, No. 3, pp. 15-17)。前記クロマルチビシバンムシに似た種であるがより体大きく、触角の形状、体表面の点刻、♂交尾器に区別点があるようである。可成り日本各地に広く産する種のようなのである。兵庫県の雪彦山産1♂がパラタイプにふくまれている。良く調べなくてはいけないが県下にもっといるかも知れない (神戸市内産で本種らしき標本が手許にある)。

産地：飾磨郡雪彦山 (1♂, 23-IX-1972, Y. Furuki leg., M. Sakai, 1984)。

16. *Hisamatsua japonica* M. Sakai

本種も酒井雅博氏が新属新種で記載された種である (Trans. Shikoku Ent. Soc. Vol. 13, No. 3/4 : 119-122, 1977)。パラタイプの中に兵庫県産1♂がふくまれている。県下ではこれ以外の記録を知らない。

産地：Tamaze, Takarazuka Hyogo Pref. (26-V-1968, Y. Miyatake leg., M. Sakai, 1977)。

以上16種のシバンムシ科を報告したが可成り調査がされていない点が多すぎる。一層の努力を必要とする。

(May, 1984)